快活で自由気ままな金髪巨乳ギャルが
ショタくんとエッチしまくる！
…ホテルで誰かとエッチすることも。

正常位、パイズリ、フェラ、後背位、
王道なプレイでギャルのエッチを存分に楽しめる！
セリフは極力控えめ、CGを楽しむCG集。

基本CG:12枚

こんがりギャルと！

目を覚ましたら、この状況だった。
服が捲れ上がって、
なまのおっぱいが押し当てられている。

「すや…むにゃ…」

むにゅ

起きそうにない。

ついつい視線がおっぱいの方に
いってしまう。

〈これが…菜々さんの胸〉

ペタ

ペタ

ペタ

ペタ

春原菜々さん。
同じ寮に住む明るい性格の人。

「んにゃぁ？」

起きた。
ビクッとした。
胸を見ていたことがばれた？

「……んｍｍ」

寝ぼけているようだ。
よかった。

だが、この現状は
どうしたものか、

もんもんとする朝でした。

一緒にゲームをしていただけだったのに。

「菜々に「こういうこと」して欲しかったんだ？」

「べ、別に僕は…そんなこと……」

「でも「こっち」はそんな「こと」言ってないみたいだよ？」

女の人に手で弄られるのがこんなに気持ちいいとは知りませんでした。

キュ

「あぅ！」

小動物の鳴き声のような声を出して果てた。

「んふ～…可愛い～…でも出る量は一人前なんだね」

（からかわれてる…何もできない…恥ずかしい）

「また遊びに来るよ…次はどうしてほしいか考えといて♡」

「も、もう結構です！」

「気持ちいっしょ？
菜々のパイズリ♡」

菜々さんのおっぱいに包まれていると、
とってもエッチで、とっても落ち着く。

「……ゆっくり、温泉に浸かるみたいに
気持ちよくなってね♡」

（温泉……確かにぽかぽかしてゆらゆらして……）

気づいたらもう限界はすぐそこに来ていて。

「おおー」
精ふくろごまっ
液がふかのおっぱいの感触に
飲みこまれていくようだった
「おっ
精液まみれか
な学校通わなくちゃいけないよー
ちゃっ
たー」
僕は困ったように言葉にする
僕は困惑しつつ興奮していた
「ん…一緒にもおるっこーーハ
すぐ白いも取れるから大丈夫だも」
黒髪ロングだ

「んぅ、んぉ？」
何言ってるかわからない。
でもわかったところで答えてる余裕もない。
「あぁっ、うぅ！」
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
強烈な刺激。
柔らかい唇に当ってから、
中はきつと柔らかくて緩やかな
感触なんだろうと思ったけど、違った。
「あぁあっ、激しすぎますぅ、
菜々さんっ！」
とんでもない魔境。
何が起きてるかわからない。
菜々さんが上手いのか、
フェラってこういうものなのか。
もう腰から下が他人のものみたいに
ガクガクいってる。

出てる。出まくってる。
気持ちよすぎて、自然と視線が天井を向いてる。

さぞだらしない顔をしてるんだろうと
思うと、情けなくて立けてくる。

ちゃー

とろ〜ん

ドビュルルル

挿れた瞬間、おまんこのおまけ1つのように感じた。
「私の身体にイってもらう…… 重症本気おねーつ」
想像を絶する甲高い喘ぎ声と共に果てた。
そしてすぐ次に腰を振った。
何かに取り憑かれたように。
「おおっ……こんなっ……おおっおおおおっ」

「ぁあぁぁぁあん♡」

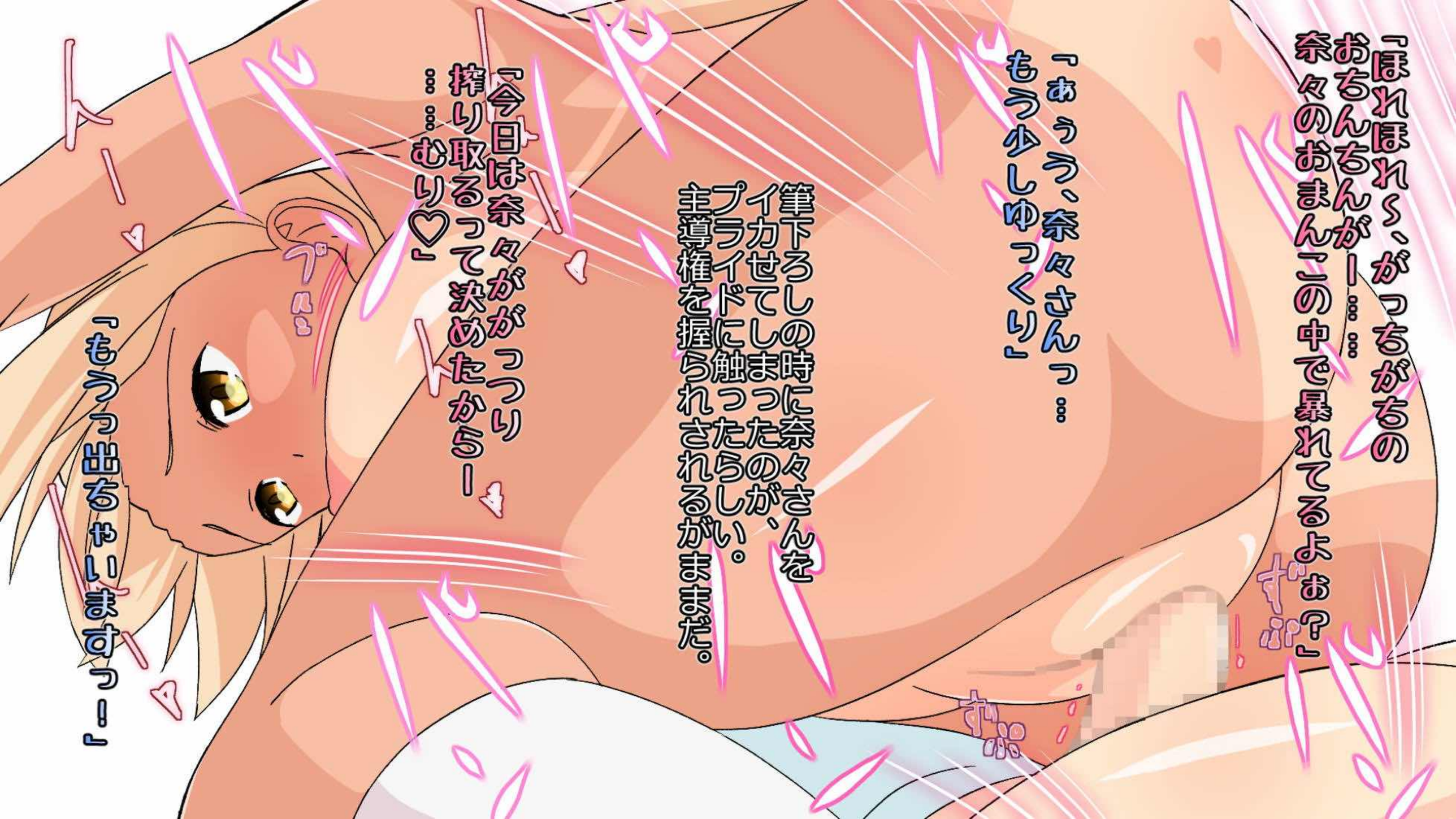
聞いたことない声。
感情が凄く揺さぶられる。
心臓がバクバクして破裂しそうだ。

「はぁ…はぁ…はぁっ」

「にひひ…食べてるつもり
だったのに食べられちゃった？」

「…？？」

何も考えられない。
ただ菜々さんがとても可愛く見えた。


「ほれほれ～、がっちがちのおちんちんがー……奈々のおまんこの中で暴れてるよぉ？」
「ぁぅう、奈々さんっ…もう少しゆっくり」
筆下ろしの時に奈々さんをイカせてしまったのが、プライドに触ったらしい。主導権を握られされるがままだ。
「今日は奈々ががっつり搾り取るって決めたからー……むり♡」
「もうっ出ちゃいますっ！」

「あぁうぅうー」

「ふぅ……ふぅ……ふぅ……気持ち…良かったでしょ？」

「……はい」

「これからも…んっ♡…覚悟しといてねー♡」

「はい……」

なんだっていい。ドロドロになってる。きっと奈々さんも同じ。二人共同じになれたことが全て。

近くに誰かいる。
「はーい…続けて」
「でも…」
ドキドキする。
罪悪感と性的な興奮の2つの意味で。
「いいから」
「あぁっ♡」
「奈々さんっ」
「くすくす」
奈々さんも動き出す。
主導権を握られるとやっぱり抵抗できない。
「ダメですっ声がっ…出ちゃうっ」
ぱちゃ
ぱちゃ
ぱちゃ
ぱちゃ
ぱちゃ
ぱちゃ
ぷるっ

「ううっっっ！」

「んうぅぅっ！」

二人で声我慢してまで、何やってるんだろう。

でも、たまには奈々さんとなら危ない橋を渡ってみるのもいいかもと思った。

びゅ

びゅ

びゅ

「ほれ～…うりうり～…」
緩い掛け声に反して、
おっぱいの動きは激しい。
「健全な水着姿を見て
勃起しちゃうようなおちんちんは、
おっぱいで気持ちよくなっちゃえ～」
それどんな罰。
「ほい」

「あう～」

軽いノリで本気の射精をさせられてしまった。

「あはは～ウケる～」

おお

木漏

木漏

いたずらをして喜んでる顔だ。

「じゃあ次は……奈々を気持ちよくして？」

黙ってうなずく。

「お、お、おっぱ
揉んでるまちこー」
今回会社もよくしてくれた
ご褒美もよくしてくれた
では選ばれしおれたから
立派な男女の関係だったが
ただ。
「ハハがこーこんなもの
（なんて……気持ち
いいんだこー）
「ん最高……あぁ
イっちゃうー」
（イくの僕のベッドー）
ぐったりする主人

「んぃぅぅぅぅぅぅぅぅー」

やれることはやりました。
奈々さんも喜んでるようで
とても満足です。

「ふぁぁ……」

もう終わりか。
でも、また次がきっとあるから。

「……」

「ふふ……またーたね♡」

べちゃ

苦しい。

「ぁあっ、あぁっ、これ奥にずんずん来るぅ♡」

奈々さんはご満悦。

「ふが、ふご」

ちょっといや結構苦しい。

でも、幸せな苦しさです。

「奈々イッちゃうぅ！」

「イクぅうううぅんー」

「ふご」

僅かな隙間から必死に酸素を取り入れる。
クラクラするほどあまい匂いが鼻腔をくすぐる。

「ふぉ……」

クラクラする。
おちんちんも苦しい。
でも、幸せな苦しさです。

「えーっとぉ……これから奈々は……ふふ……エッチしーます♡」

誰かにスマホを向けられ、話すように促されていた。

「ちょっとヤバい感じかも…？」

ノリでなんとなく答える。ただ楽しんでいた。

キス

ペロペロする♡

ヤ

ぷに

ズン

「んぅ…ん…ん」

ゆっくりとかき回す。
一秒が長く感じるくらい、ゆっくりと。

「ん…気持ちぃよ」

気持ちいかと聞かれたので、
男が喜ぶ解答をした。

ベッドの軋む音が激しくなっていく。

「あっ…ふぅ…あ♡」

まんざらでもなくなってきた。
膣内は濡れまくり、本気で感じてきた。

4度目。
（凄い絶倫……気持ちいけど……そろそろ飽きてきたかもー…）
いまだにセックスに夢中になっている男を傍目に、奈々は飽き飽きとしていた。
（気持ちよさそう……あーそろそろ終わって欲しい）
合計、休憩を挟みつつ2時間もヤった。

「にひひ……あーい……どうもでーす
……2時間もやって疲れましたー
でも気持ちよかったです♡」

胸には一万円札が2枚。
ポケットにも何枚か入ってるようだ。

「こっちこそ、楽しかったですー
……こういう危ないのフツーの
人とじゃできないから♡」
（精液臭～……うげー）

「またよろ～♡」

終始軽いノリだ。

そして、彼女は何事も
無かったかのように
日常のあるところへ帰っていった。

ヘヤ
ヘヘヘ
むぐ
ぐぐぐ

んぁ…

ぱく

あっ。

メス

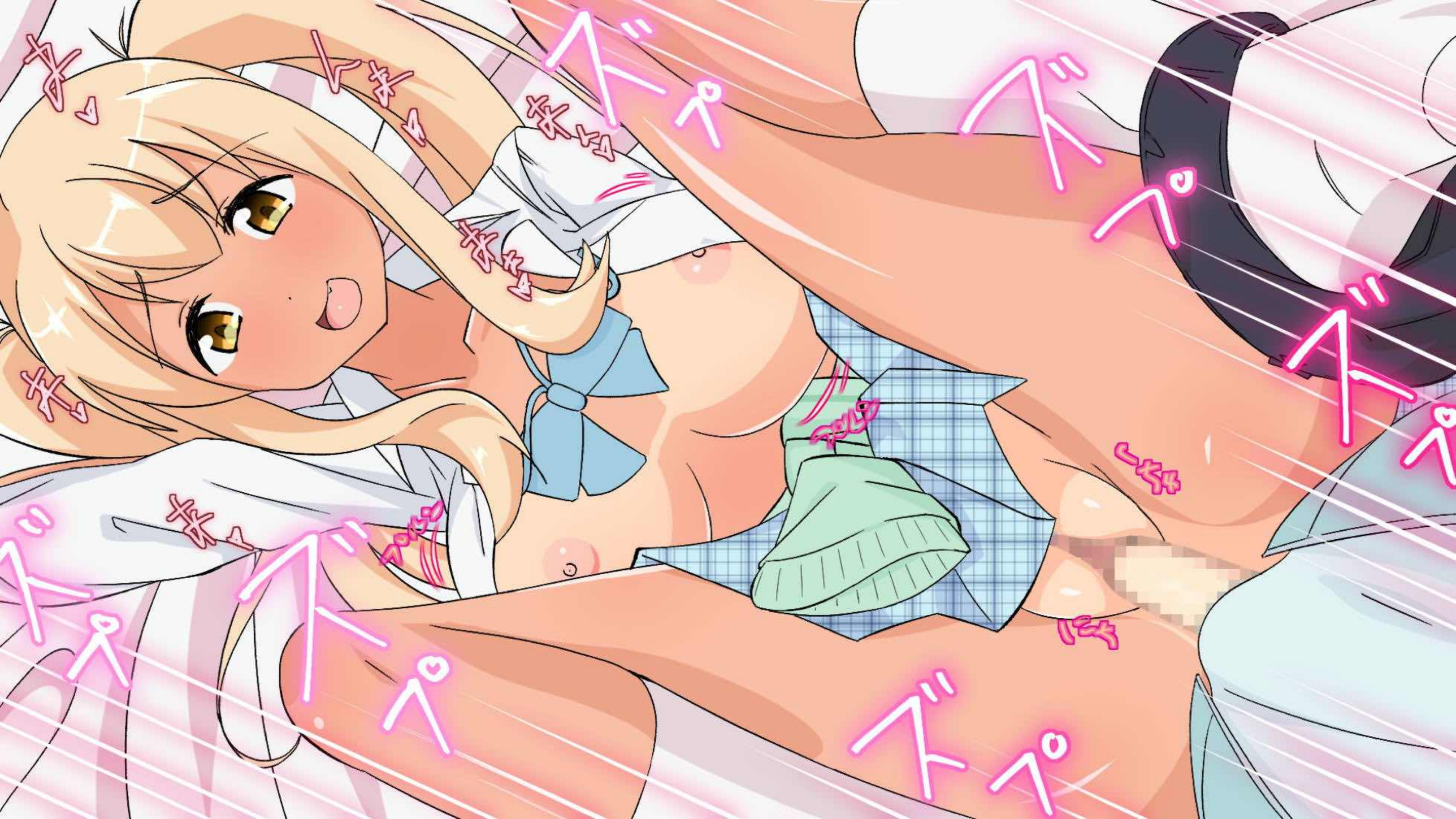
ハァ
ハァ
ハァ

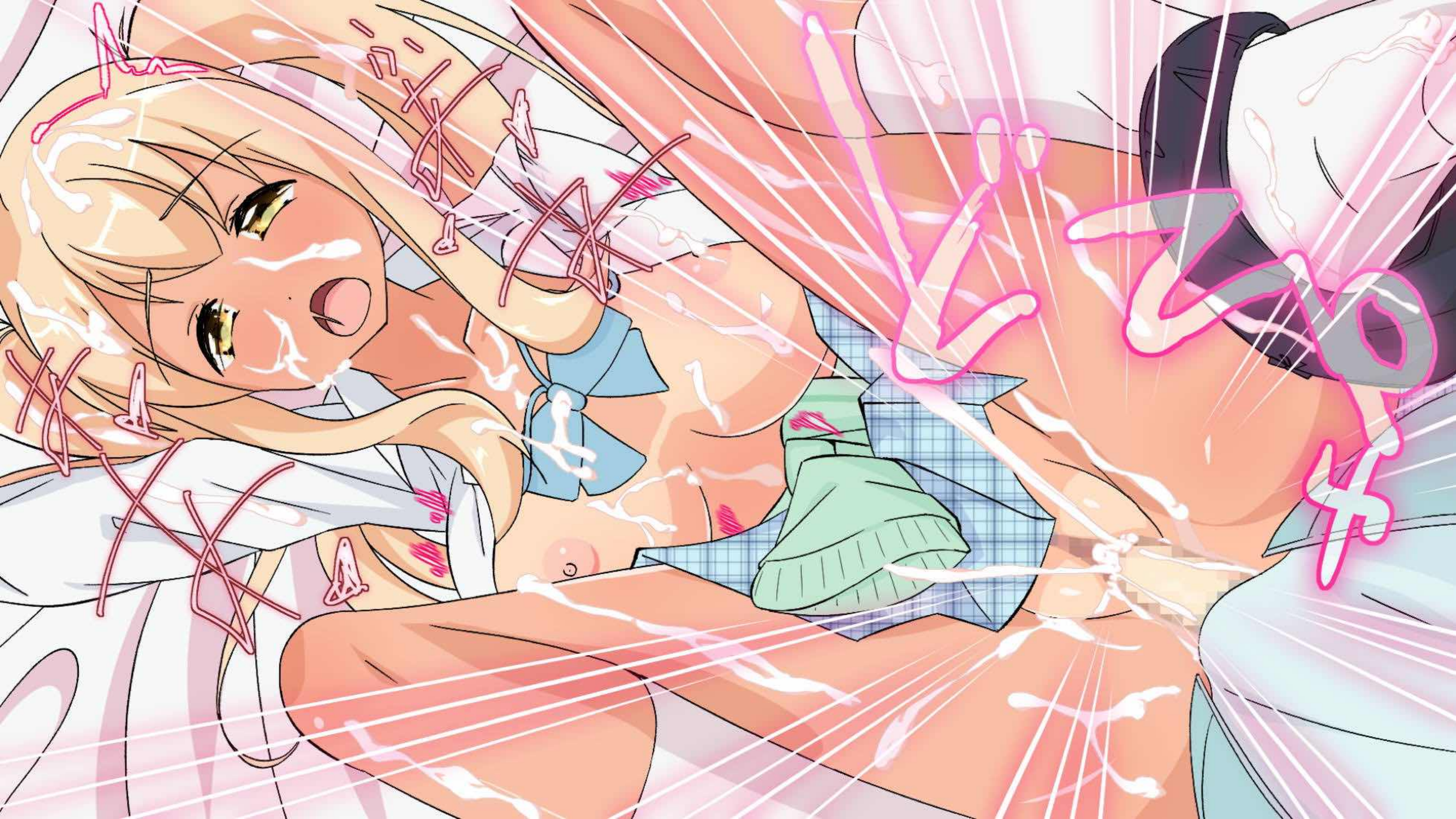
ゆさ
ゆさ
ゆさ
ゆさ
ぺち
ぺち
ぺち

ビュー
ビュー
ビュー
ビュー

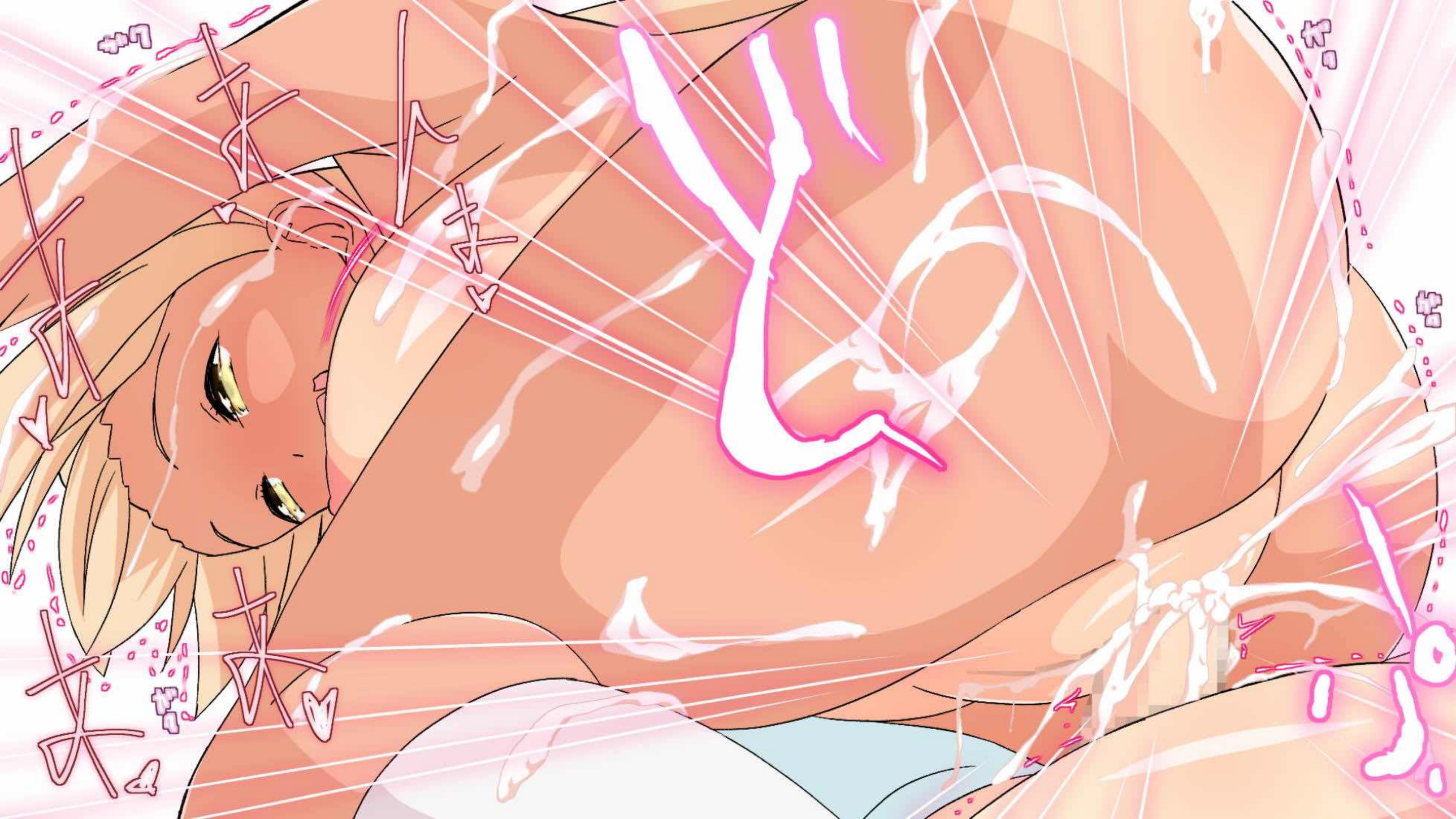
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ
じゅぷ

ビュー
ビュー
ビュー

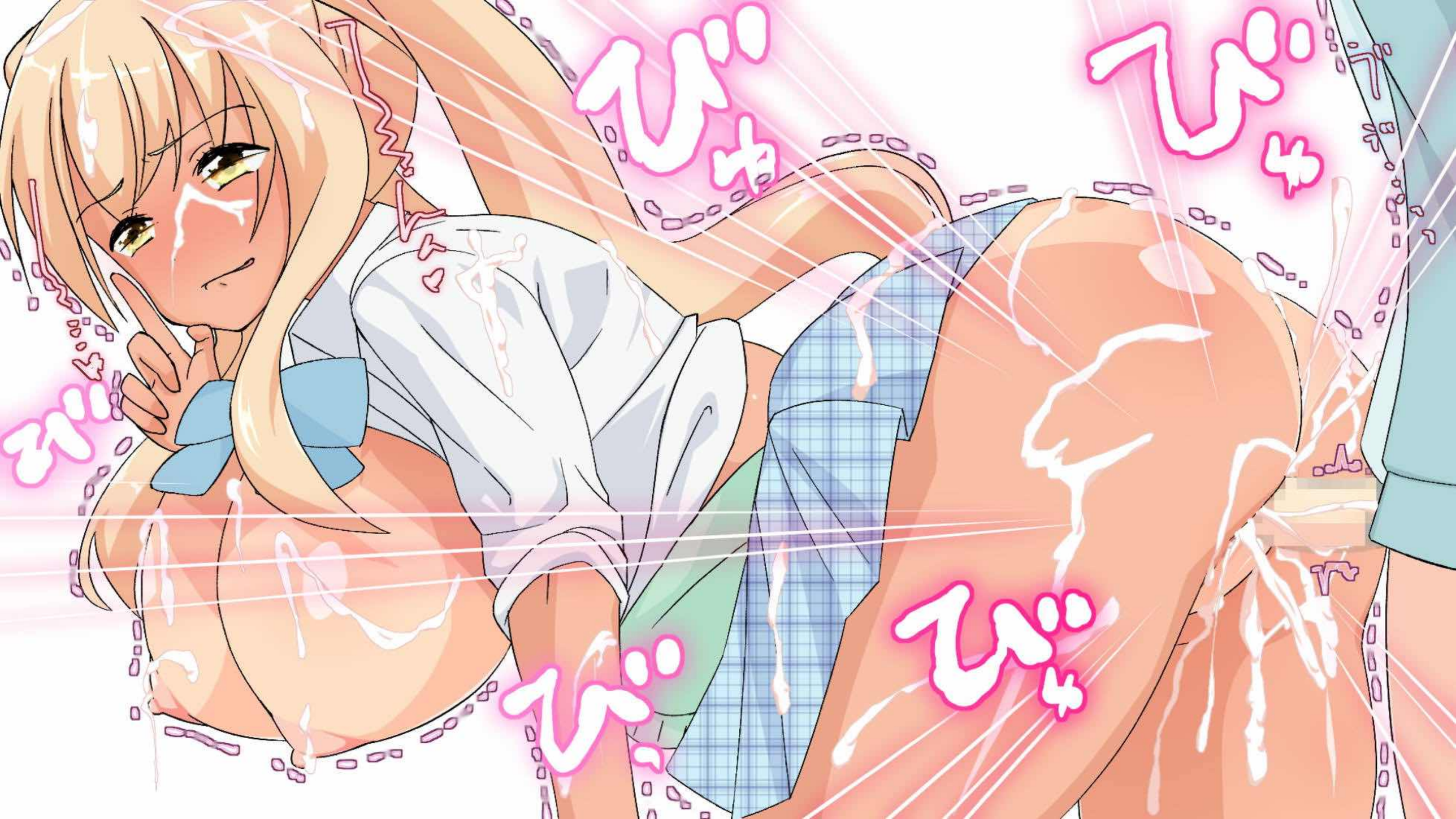

ペペペ



ブルル
ドドド



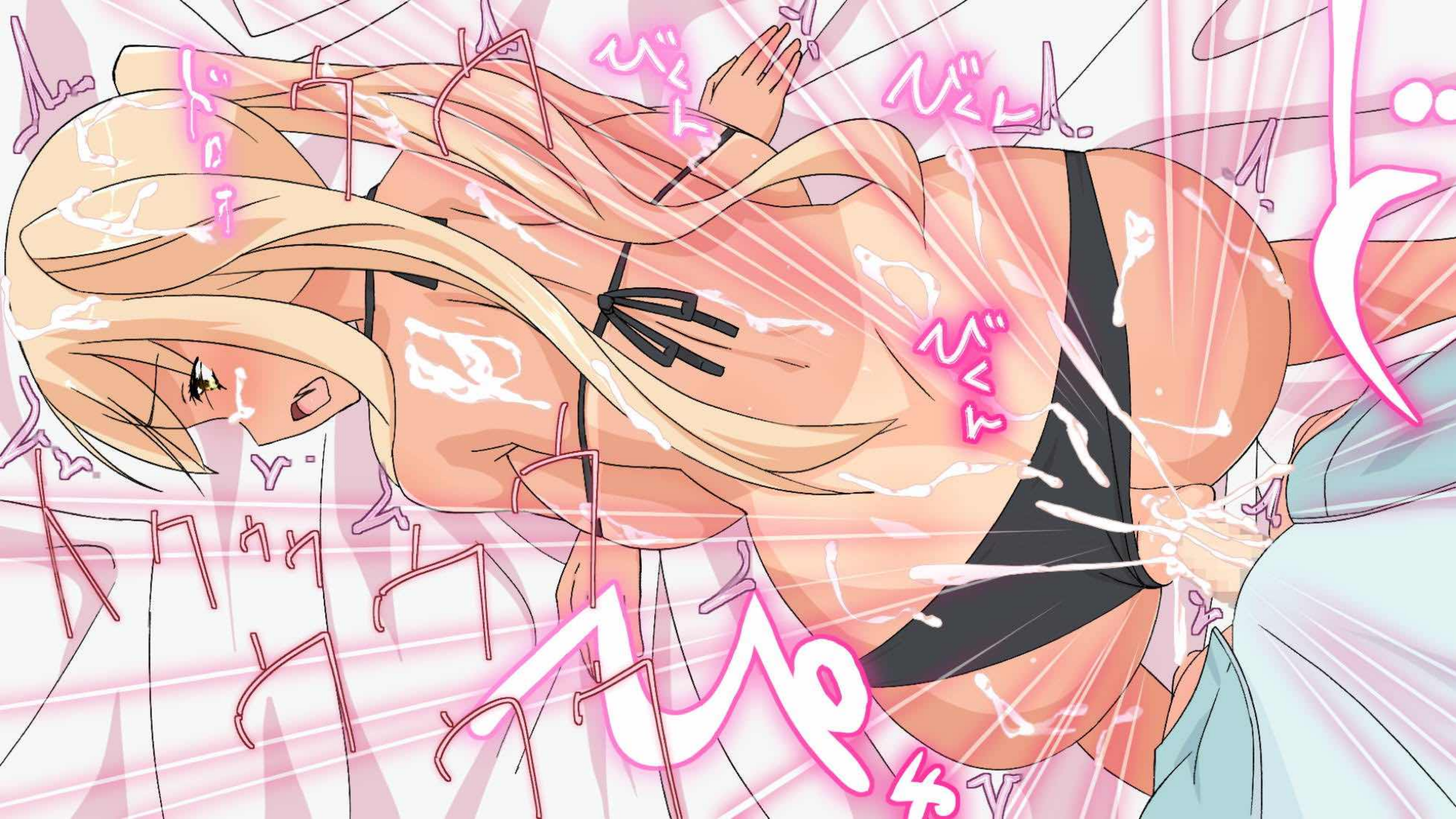
ぱちゃ
ぱちゃ
ぱちゃ
ぱちゃ
ぱちゃ
ぱちゃ
ぱちゃ
ぷるーん
ぷるーん
ぷるーん

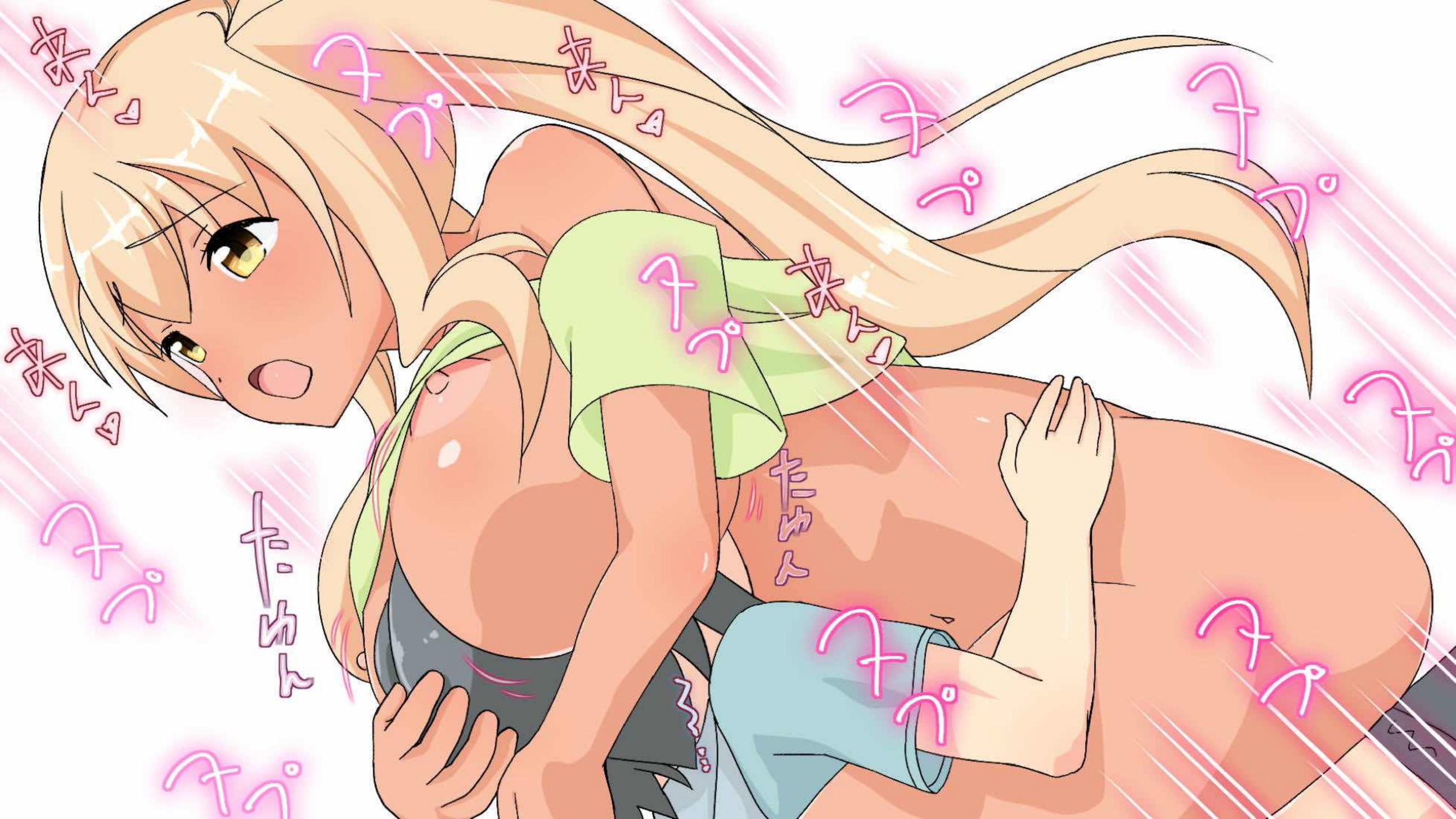

びゅ
びゅ
びゅ
びゅ

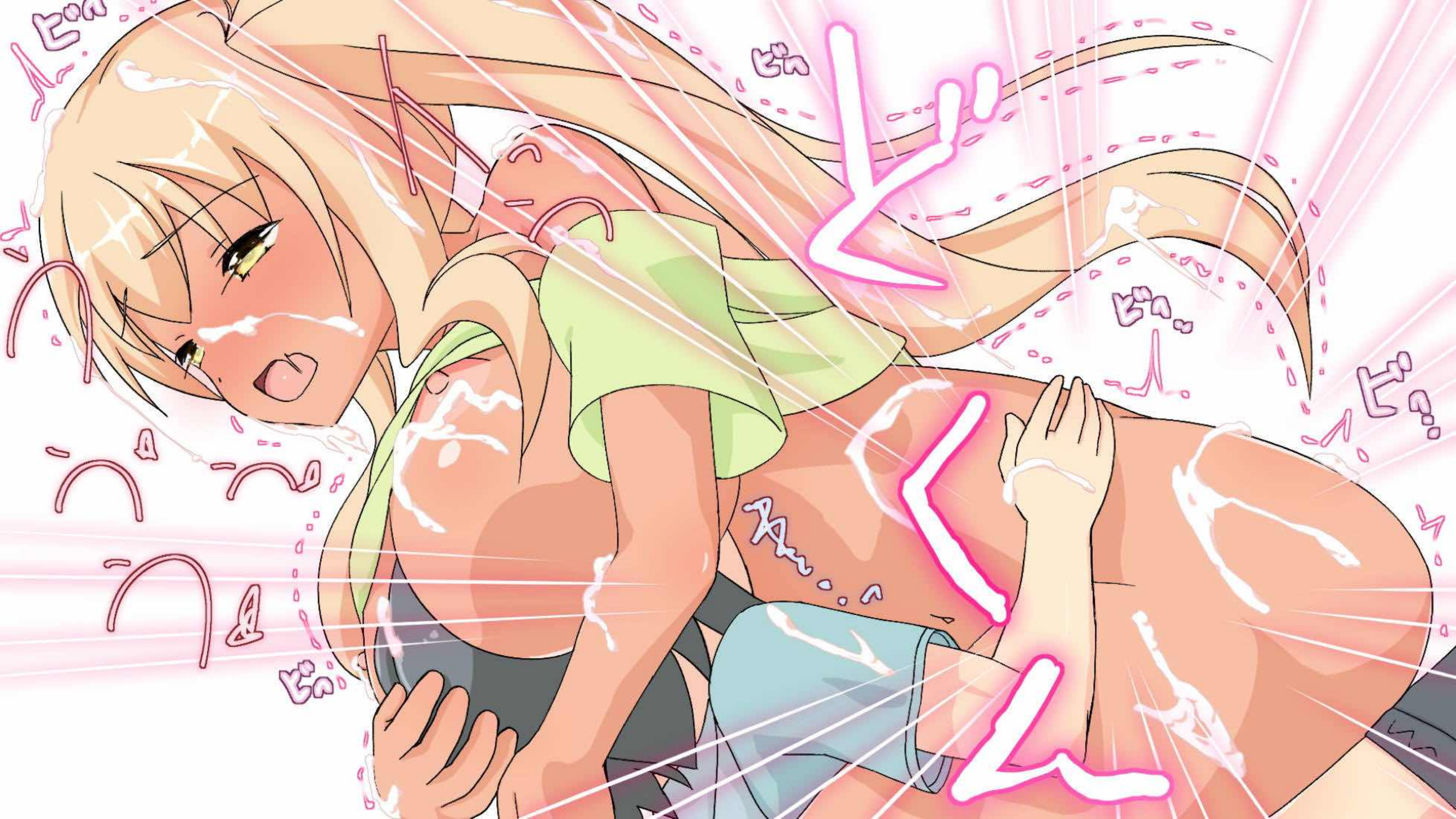
もにもにもにも

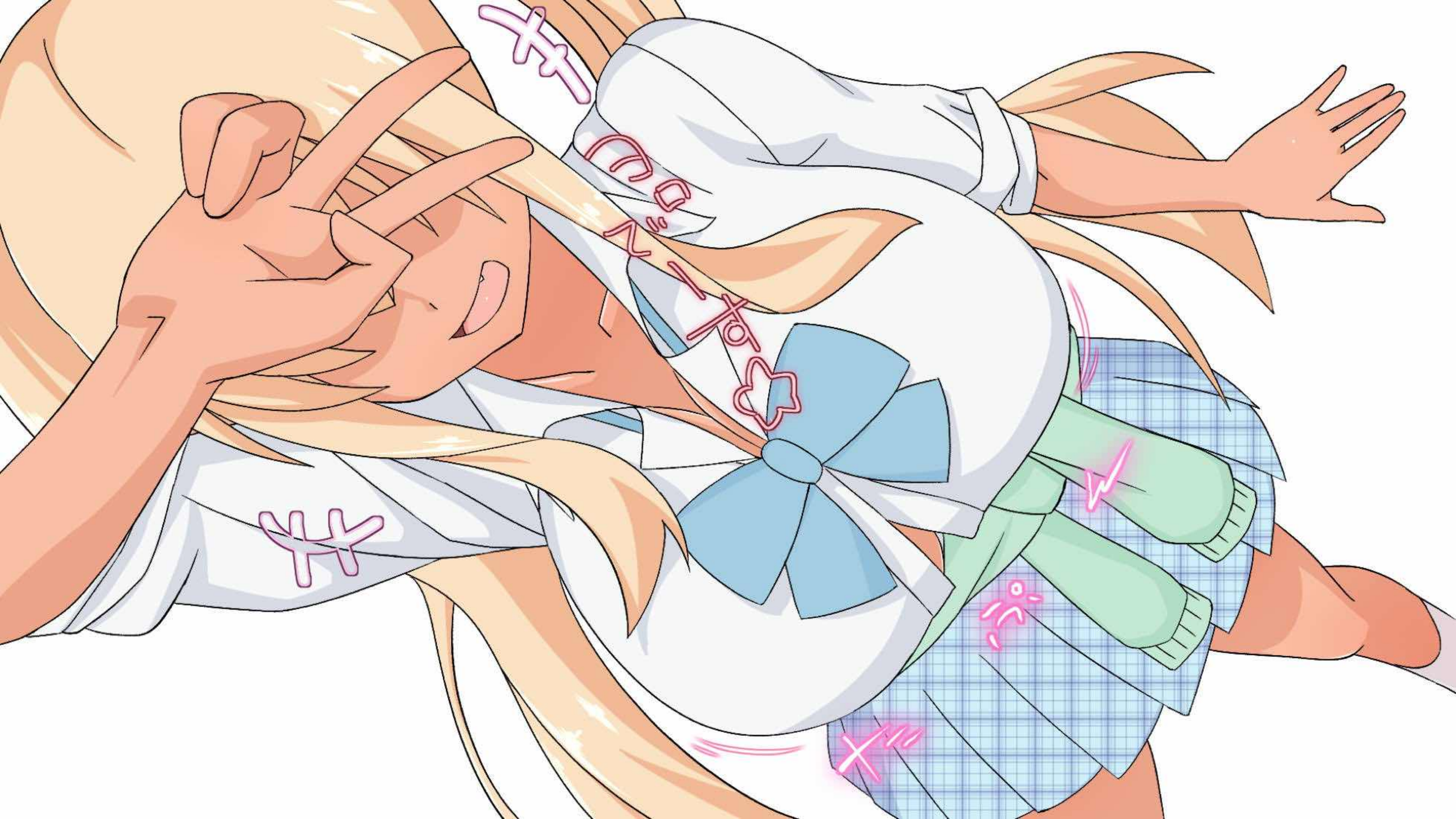
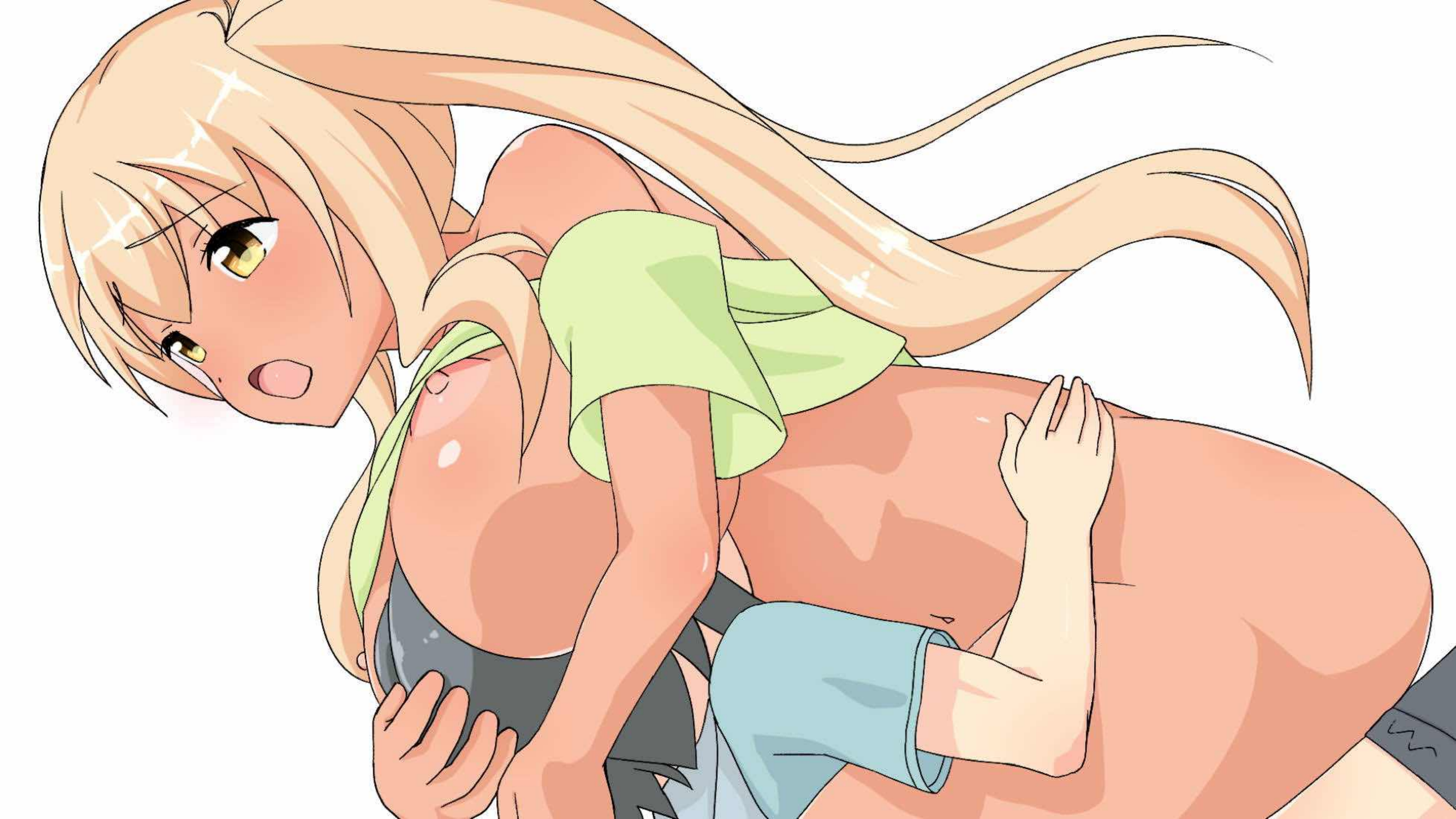
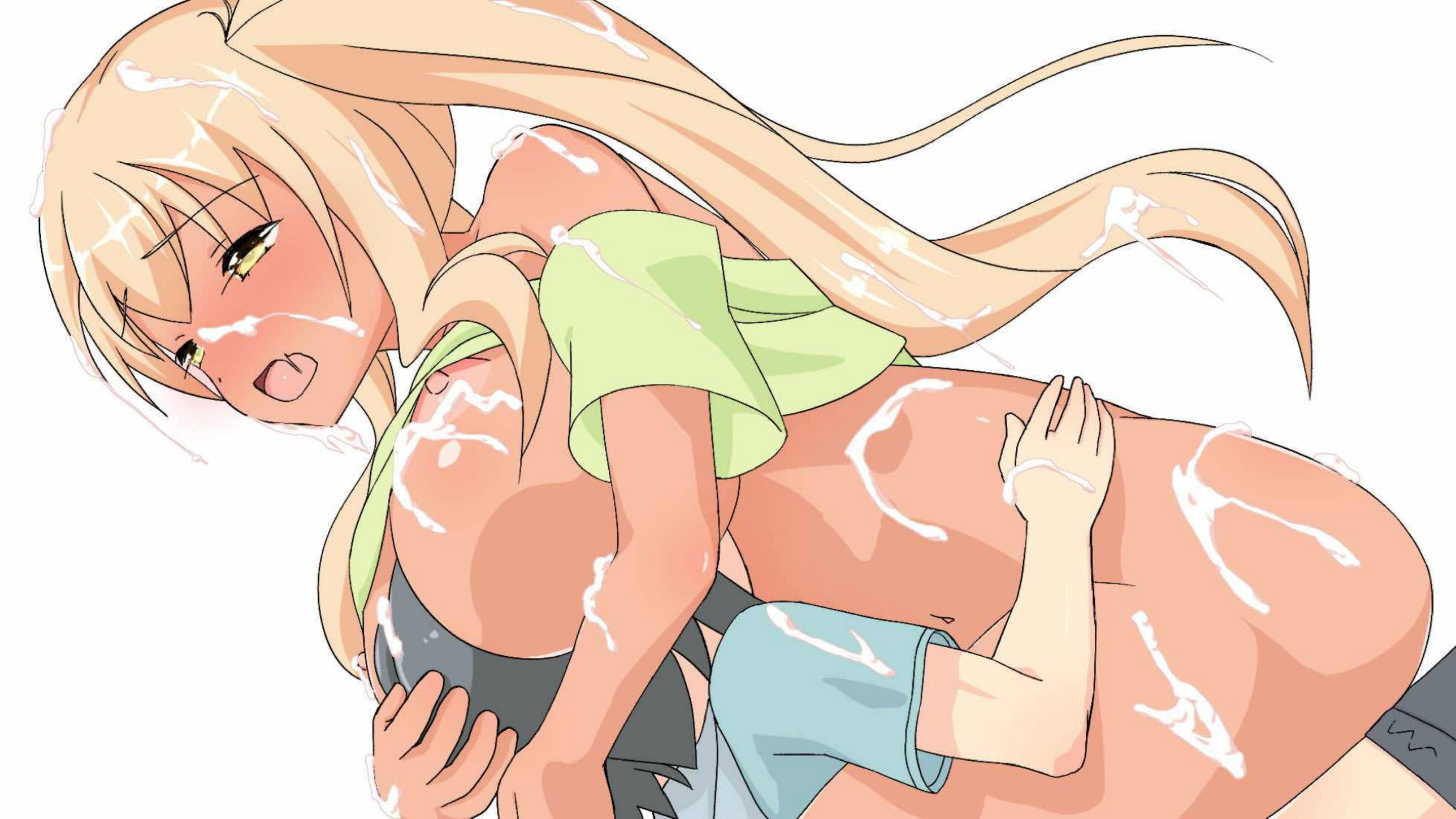
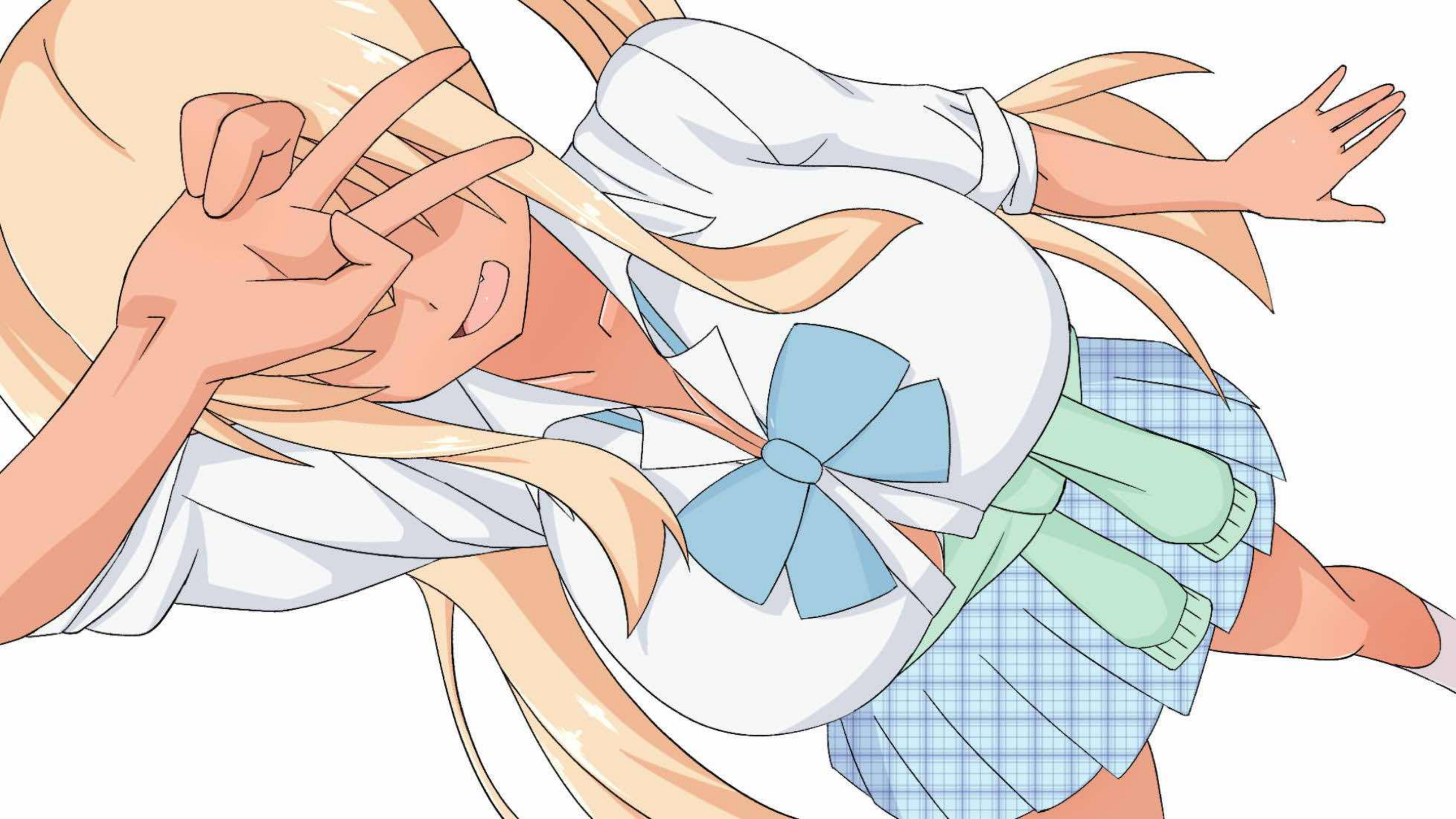
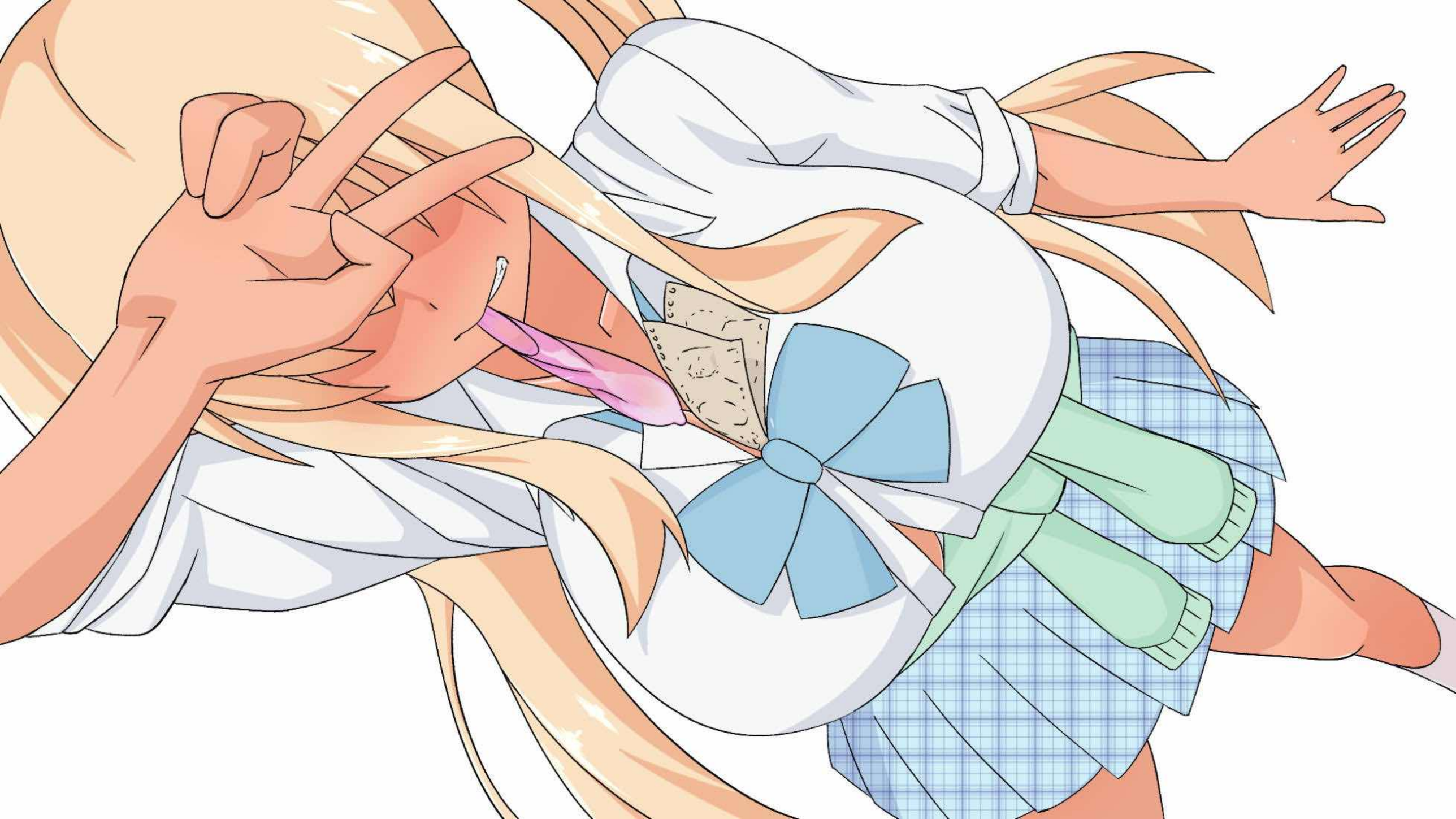
ドピュ
ドピュ
木漏れ日
木漏れ日

あ、
ン、
あ、
ン、
ン、
ン、
ン、
ン、
あ、
ン、
あ、
ン、
ン、
ン、
ン、
ン、


ベッ
ベッ
ベッ
ベッ
ベッ
ベッ


ぎゅっ
ぷにっ
ぎゅっ
ぷにっ
ぎゅっ
ぷにっ
ぎゅっ
ぷにっ
たゆん
たゆん
ぷにっ
ぷにっ
ぷにっ


ビュ
ビュ
ビュ
ビュ
ビュ
ビュ


ギュ
ムニュ
ヤヤ
ペロ
ペロ
ペロ

ずぶ
ずぶ
ずぶ